

自分のことは自分で行う、そしてコーチがまず実践（見本になっていきますか）

育成のサッカーは教育的であること

目覚まし時計は自分でセットしよう。サッカーの用具の手入れや準備は自分でしよう。当たり前のことかできていますか？U - 12の子どもに言うようなことができないU - 14の選手が多いのではないのでしょうか。この年代は身体の成長が著しく、見た目も大人に近づいていきます。しかし、「分かっているようで分かっていない」そんな年代であることも事実ではないのでしょうか。選手は大人として認めてもらいたいという欲求が多くありますが、そのためには大人として何が何を理解しなければなりません。それが分かっているなければしっかり教える必要があります。自分勝手な理屈や振る舞いで人に迷惑を掛けないこと。大人として良いことと良くないことを理解しなければなりません。そのためには一番近くにいるコーチが、大人としての振る舞いをすることが重要であることは言うまでもありません。

～ U - 14年代のコーチに求められるもの（NTC U - 14 2008）

U - 14年代は「感覚的なサッカーから一歩進んで、状況を見て判断する能力が問われる年代」です。当然ですが、判断して行動することが一人ひとりの選手に求められています。

この年代に多いのは、判断しない（+行動しない）選手です。攻撃時に周りの状況を見ないでパスしたり、ドリブルする選手。守備時に自分のマークする相手を見ていない選手。攻撃時にシュートチャンスでシュートを打たない選手。味方がよい状況でボールを持っているのに、前のスペースに出てパスを受けようとアクション（行動）を起こさない選手。守備のときに奪うチャンスがあるにもかかわらずチャレンジ（奪いに行くこと）しない選手。味方のDFが守備しているときにはもどって一緒にボールを奪おうとしない選手。判断できない選手は次のステージでサッカーをすることが難しくなります。多くの選手は、味方にパスしたり、攻撃に参加しないことで責任を回避したつもりになっているのかもしれませんが、そもそも攻撃に参加しないことこそ大きな問題です。

サッカーは自分で判断してプレーできるからこそ楽しい。ただし、一つひとつの判断には常に責任が存在するのです。サッカーであっても、一つひとつの判断にきちんとした根拠を持って説明することが求められます。曖昧な根拠で判断することはチームを窮地に陥れることとなります。（＝自分勝手な理屈や振る舞いで人に迷惑を掛けてしまう。）U - 14年代は大人のサッカーの入口になります。大人のサッカーは、判断し続け、プレーし続けることで成り立っています。ところが、サッカーは足とする不確実なスポーツです。（90分で1点も入らないこともある。）だからこそ、失敗を恐れてトライしないのではサッカーになりません。トライし続けることが攻撃を成り立たせているのです。（失敗をすることは悪いことでしょうか。失敗を恐れてボールを遠くに蹴り上げて、FWが偶然にボールを拾って、ゴールを奪う。よく見る光景ですが、ロボットにやらせた方が上手くいくように思います。我々はロボットをつくっているわけではありません。）

実はこの話、グラウンドの上の話ではありません。子どもたちをどう育てるか、という話なのです。中学生を一人のサッカー選手として扱っているかという話です。判断させ、行動させているか、大人として扱い、責任を持たせているか、という話です。子どもが大人になる（＝自立する）ために、周囲の大人（＝コーチや保護者）は何をしなければならないのでしょうか。

もちろん、我々大人には大人としての振る舞いが求められています。